■　実習集

コンセンサス実習「尾びれを持ったお姫様」

南山大学人間関係研究センター

ねらい

・コンセンサスによる話し合いを体験する
・話し合いの中での自分や他者のコミュニケーションの特徴に気づく
・自分や他者の価値観に気づく

グループサイズ

1グループが5人から7人で、何グループでも実施可能

所要時間

150分

準備物

1．手順書（資料1）、物語（資料2）、個人・グループ決定用記入用紙（資料3）、コンセンサスの留意点、ふりかえり用紙、を各自に1枚ずつ

2．グループ決定の結果の発表用のホワイトボードもしくは模造紙

会場の設定

各グループが自由に話し合えるだけのスペースが確保できる広さの部屋があればよい。

手順

1．導入　＜５分＞

手順書（資料１）を使用し、ねらい、手順を説明する。

2．個人決定　＜10分＞

物語（資料２）を読み上げたあと、各自の個人決定を記入用紙（資料３）に記入するように求める。話し合いに備えて自分の主張のポイントを理由欄に記入しておくように勧める。

3．グループ作り　＜５分＞

適当な方法で小グループを決定し、グループの場を作り、輪になって座る。

4．コンセンサスによる集団決定をする際の留意点の説明　＜10分＞

コンセンサスによる集団決定をする際の留意点を、Creative O.D. Vol.Ⅲ, p.51（プレスタイム社）などを用いて説明する。

5．グループ決定　コンセンサスを求めての話し合い　＜50分＞

話し合いの最初に、各自が自分の個人決定を発表し、お互いにそれを記入用紙にメモしてから話し合いを始めるようにするとよい。話し合いの時間はグループのメンバー数やグループの状況によって調節すると良いが、30分以上60分未満が適切。

6．グループ決定の発表　＜10分＞

ホワイトボードまたは模造紙にグループ決定の記入表を準備しておき、そこに各グループのグループの決定（未決定があるときは決定の現状）を記入してもらう。各グループに決定のプロセスを発表してもらうと30分以上かかってしまうことも多いので、プロセスのふりかえりの時間が足りなくならないように、ファシリテーターが手短に各グループの決定の結果を確認するだけにした方がよい。

7．ふりかえり用紙記入　＜15分＞

ふりかえり用紙はねらいに対応させて作成するとよい。実習中に気づいたその人の価値観や参加の仕方など、メンバー一人ひとりへのフィードバックをタックシールなどに記入し、相互に交換するもの良い。

8．グループでのわかちあい　＜20分＞

できるだけ時間をたっぷりとることが、実習の成功のカギである。

9．全体でのわかちあい、まとめ、または小講義　＜10分＞

ファシリテーションのポイント

この課題は、コンセンサスによって価値観に関わる集団決定を体験するための課題の一つである。時間内にすべての順位の決定ができないグループもあるが、話し合いの時間は設定した時間で打ち切ると良い。考え方によっては時間内に結論を出すことも重要であるが、ここではプロセスの学習に焦点があるこ

とを伝えて、未決定も含めた“現状”を吟味していくことを勧めると良い。

原案の作成

この実習の原案は、2000年度南山大学人間関係研究センター主催講座「アドバンス体験学習」において、安藤和憲、加藤初音、小林奈央、下川原瑞枝の4氏が作成したものである。

参考文献

柳原光　1982　「コンセンサス実習」『Creative O.D.　人間のための組織開発シリーズVol.Ⅲ』プレスタイム

資料1

コンセンサス実習「尾びれを持ったお姫様」

ねらい：・コンセンサス（全員の合意）による集団決定を体験する。
・グループが意思決定をしていくときに起きるさまざまなことがらに気づく
・話し合いの中での自分や他者の参加の仕方やコミュニケーションの特徴に気づく
・自分や他者の価値観に気づく

進め方

１．導入（ねらい、進め方の説明）

２．実習の実施
・個人決定
・グループ決定
・結果の発表

３．ふりかえり

４．まとめ

出典：南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」第７号（2008）

資料2

尾びれを持ったお姫様（物語）

透き通った海の底にお城がありました。そこには美しい人魚の姉妹が住んでいました。妹の人魚姫は、海の上の珍しい街の様子を話して聞かせる姉の言葉に、いつも胸を躍らせて聴き入っておりました。

人魚姫がいよいよ年頃になったとき、初めて海の上へ浮かび上がりました。そこには船があり、立派な王子が乗っているのが見えました。人魚姫が王子の姿に見とれていると、まもなく海は荒れ、高波が船を押しつぶしてしまいました。人魚姫は、海に投げ出されて気を失った王子を助けました。そして、王子を砂浜に置くと、岩陰に身を隠しました。

小高い丘の上から一人の若い娘が、その様子を見ていました。若い娘は王子に近づくと懸命に介抱しました。気がついた王子は、その娘が自分を助けてくれたと思い、微笑みかけました。

王子のそばから離れた人魚姫は、泣きながら海の底へ帰り、深い悲しみにくれていましたが、とうとう魔女のところに行って、人間にして下さいと頼みました。

魔女は、「お前のきれいな声と引き換えにするなら、すらりとした脚をあげよう。それから、もし王子が他の娘と結婚したら、お前はたちまち泡になって消えてしまうのだよ。それでもいいかい。」と言うのでした。

それを聞いて人魚姫はうなづきました。

人魚姫は、魔女にもらった薬を飲んだとたんに気を失って、ふと気がつくとそこは浜辺で、美しい脚ができており、王子が目の前に立っていとおしそうに人魚姫を見ています。しかし、言葉を失った人魚姫は、ただ目を伏せるだけでした。

やがて二人はすっかり打ち解け、一緒に馬に乗って森の中を駆け巡るまでに親しくなりました。人魚姫にとって幸せな毎日が過ぎていきました。

そんなある日、王子は人魚姫に、自分を砂浜で救ってくれた娘の話しをしました。

「私の命の恩人なのだ。どうしてもその人にもう一度逢いたい。」

しかし、人魚姫は何も言えません。まもなく王子は、自分を助けてくれた若い娘を探し出すために、隣の国に出かけていきました。

ふと立ち寄ったある村で、王子はついにあの若い娘を見つけたのです。その娘を一目見たとき、王子は叫びました。

「あなただ。私をあの海から救ってくれたのはあなただ。」

若い娘は、黙って微笑みました。

二人はまもなく結婚することになりました。結婚式の夜、船の上で祝いの宴が開かれました。王子と花嫁が天幕に入ってお休みになった頃、船端に音がします。見ると、人魚姫の姉が、波の上に浮かんでナイフを差し上げていました。

「これで、あの薄情な王子を刺すのよ。そうすれば、あなたはまた元通りお城へ帰れます。私にとってあなたはかけがいのない大切な妹。死んではいけません。」

人魚姫はナイフを手に天幕に入りました。そして、愛する王子の額にそっと口づけをしました。すると王子は、夢の中で、胸に抱いている花嫁の名前をつぶやいたのです。人魚姫の手からナイフが落ち、目に涙があふれました。

人魚姫はそのまま船べりから海に身を投げました。そして朝日の中で泡になって、静かに消えていきました。

（この物語はアンデルセンの童話を元に脚色されたもので、原作とは異なっています）

出典：南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」第７号（2008）

資料3

尾びれを持ったお姫様

課題シート

１．「尾びれを持ったお姫様」の物語に出てくる５人の人物について順位づけをして下さい。あなたが一番好感を持てる人物を１とし、以下順に２、３、‥‥と、あなたの好感度の観点から（同順位はつけないで）順位をつけて下さい。

理由の欄には、その順位づけの簡単な理由を書いて下さい。

個人の順位	登場人物	理　　由
_____	人 魚 姫	
_____	姉の人魚	
_____	王　　子	
_____	魔　　女	
_____	若い娘（花嫁）	

２．次に、グループとしての順位づけをして下さい。
（特定の司会者は決めないで、しかも全員が討議に参加できるような仕方で、全員の賛同が得られるような順位の決定をして下さい。）

メンバー／登場人物	1	2	3	4	5	6	7	グループの決定
人 魚 姫								
姉の人魚								
王　　子								
魔　　女								
若い娘（花嫁）								

出典：南山大学人間関係研究センター紀要「人間関係研究」第７号（2008）

実習使用規定

ラボラトリー方式の体験学習に関するツールを公開することで、ラボラトリー方式の体験学習が広く普及することを願って、第7号(2008)より「実習」を掲載しております。ここに掲載されている実習は、当センター研究員とその仲間によって開発され、これまでの教育実践で用いられてきたものです。使用の際には以下の留意事項をお守りください。

なお、ラボラトリー方式の体験学習を実施する際には、まずはご自身がラボラトリー方式の体験学習を体験されることをお薦めします。当センターではラボラトリー方式の体験学習を用いた公開講座を開催しております（詳しくは当センターの Web ページ http://www.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/ をご参照ください)。体験学習のファシリテーションを学んだ上でご使用ください。

実習を使用する際の留意事項

１．著作権は著者に属します。実習を販売することや、営利目的の発行物などに転載をすることは禁止します。なお、教育目的での無料の発行物などに転載を希望される場合は、当センター事務局にお問い合わせください。

２．ラボラトリー方式の体験学習として教育・研修などに使用される場合には、各実習の課題シート（実習の指示書）に出典を明記してください。使用の際に当センターや著者に許可を得る必要はありません。また、使用料も発生しません。

【出典の記入例】

出典：大塚弥生（2008)「グループ　エントランス」
南山大学人間関係研究センター 人間関係研究, 第 7 号より

３．課題シート（実習の指示書）をそのまま使用するのではなく、プログラムの実施状況に合わせて適宜修正・変更した上で使用する場合は、「参考」として出典を明記してください。

４．ラボラトリー方式の体験学習で大切にされている教育観（学習者中心の教育、非操作の教育、学習者が自らの人間的成長に取り組む教育）に反する使用は禁止します。たとえば、営利目的で学習者を操作する自己啓発セミナーなどでの使用は一切禁じます。